

AYLA HOUKAGO PARTNER

# 今日のこどもを わかつらう2026

～ピアジェの発達段階から～



こどもがゆっくり  
育つていいと  
思える時間





# アセスメントとは

# アセスメントとは何か？



**アセスメント (ASSESSMENT) :**

**「客観的評価・査定」の意味**

**= 対象への適切な介入を行うために、情報を収集し、  
発その情報の持つ意味について分析すること**



# 発達支援の基本視点

表面化した困り

個

発達段階

認知特性

感情調整

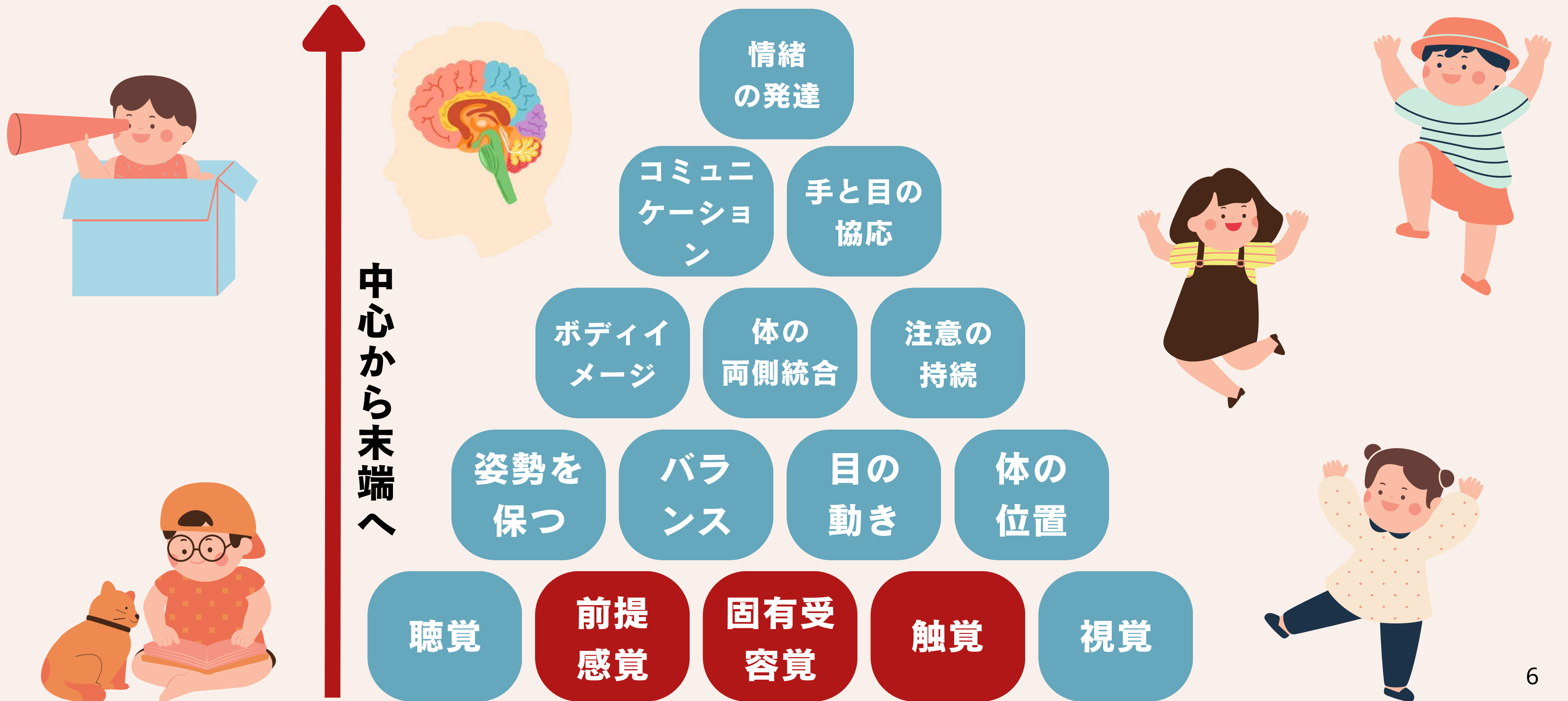
環境

周囲の環境

影響する出来事

きっかけ

# こどもの育ち



# アセスメントの種類

フォーマル  
アセスメント

定量的  
客観的  
標準化されたもの



インフォーマル  
アセスメント

面談  
行動観察  
成果物



# 皆さんなら何を聞き取る？①



**自閉症の年長男児。保育園で制作に参加できない。制作になるとキョロキョロしたり体を捻って動き出したいサインを見せる。キョロキョロしているときは先生の指示は通らない。**

# 皆さんなら何を聞き取る？①

インフォーマルアセスメント

フォーマルアセスメント



# 皆さんなら何を聞き取る？②



**小一男児、支援級（情緒）在籍。書字読字への苦手感がある。チャイムが鳴るまでは友達と笑顔で過ごしているがチャイムが鳴ると先生から逃げようと走り出す。学校への生き残りも強い。**

# 皆さんなら何を聞き取る？②

インフォーマルアセスメント

フォーマルアセスメント



# インフォーマルアセスメント

生育歴

発達段階

心理的課題

感覚特性

興味・関心

障害特性

周囲の環境

ニーズ



面接、行動観察などからこれらの情報を継続的に集めていきます

# フォーマルアセスメント

**尺度が標準化されており信頼性、妥当性があるもの**

同じ道具や質問をたくさんの人に実施してみても標準化されていることや客観的であることが特徴です。又、検査によっては、その個人の得手・不得手をプロフィール化でき支援方法を明確化しやすいという良さがあります。そして、何より検査者が投げかけた問いに対するリアクションから、その刺激がどのように受け止められたのか、困った時にはどのように反応するのかなどが確かめられます。反面、非日常的な場面で評価されるため、普段より能力が低く表れたり、お子様への負担も大きい事がネックです。

**WISC**  
(ウィクスラー式  
知能検査)

**新版K式**

**田中ビネー  
知能検査**

**SM社会生活  
能力検査**

# 療育施設でよく目にする検査

**WISC**  
(ウィクスラー式  
知能検査)

認知能力・知能の発達  
情報の出力・入力

**田中ビネー  
知能検査**

精神年齢

**新版形式**

姿勢・運動  
認知・適応  
言語・社会

**SM社会生活  
能力検査**

社会生活における  
適応行動の評価

その他 **K-ABC (日本版 K-ABC II) : 得意な認知処理様式 (継次処理/同時処理)**

**Vineland™-II適応行動尺度 : 個人的、または社会的充足に必要な日常活動の能力**

**SP感覚プロフィール : 感覚処理、調整、行動や情動反応**

# フォーマルアセスメントの必要性

## 放課後等デイサービスガイドラインより

子どもと保護者及びその置かれている環境を理解するためには、  
子どもの障害の状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を、  
**標準化されたアセスメントツール**を使用する等により確認する。  
(例えば「Vineland-II 適応行動評価尺度」の日本版)

→各指導員の主観だけでなく、客観的な指標を用いて確認することにより、  
**お子様をまなざす視点を統一化**することにつなげるため。

# 特別支援学級を 検討する子どもは 発達検査を受ける

就学決定の合理的な判断材料として必要





# 発達を見る

言語は2歳  
社会性は3歳  
運動は5歳

領域ごとに発達段階が異なることがあります



# 発達を見るときの大前提

発達支援では、こどもを生活年齢ではなく「**発達年齢**」で見ることが重要です。例えば「8歳でも発達年齢は4歳相当」、「7歳でも感覚発達は2歳レベル」ということは珍しくありません。しかし現場では「小学生だからできるはず」、「もう〇歳だから分かるはず」という**生活年齢での期待が生まれやすい**のです。このズレが起きると、叱責が増える、できないことを努力不足と捉える、問題行動として扱われるということが起きます。発達支援では「**今この子はどの発達段階にいるのか**」・・・ここから支援を考える必要があります。

# 発達 は 段階的に積み上がる

発達心理学では、発達は段階的・積み上げ型であるとされています。ピアジェはこれを発達段階理論として説明しました。

発達は①**感覚運動期** ②**前操作期** ③**具体的操作期** ④**形式的操作期**という段階を経て進むとされています。重要なのは段階を飛ばして発達することはないという点です。

そのため土台の発達が弱い場合上位の発達は不安定になります。

首が座っていないのに歩かせないし、自分で安定してお座りしないのにお箸を持たせないでしょう～





# 感覺運動期

# 感覚運動期とは①

概ね0～2歳頃の子どもにみられる、子どもが「感覚」と「身体の動き」を通して世界を理解していく発達段階です。

例えば触る、口に入れる、振る、落とす、投げる・・等を通じ、自分の体の感覚を頼りに、遊びという名の研究活動を行っていきます。この時期は体験 → 認知 → 言語という発達の最初の土台になります。発達は大きくこの順序で進みます。

① 感覚探索 ② 循環反応 ③ 物の永続性 ④ 目的と手段

⑤ 物の機能理解 ⑥ 表象（象徴機能） この順序が思考・言語・社会性の基礎になります。

# 感覚運動期とは②

## ① 感覚探索 (0～4か月)

身体感覚による学習

## ② 循環反応 (1～8か月)

- 足を動かしたら音がした
- おもちゃを振ったら鳴った

など、偶然起きた行動を繰り返します。

## ③ 物の永続性 (8～12か月)

見えなくても存在しているという理解が育ちます。

それにより探す、待つ、思い出すなどの力が生まれます。

⇒ 記憶・見通しの土台

# 感覚運動期とは③

## ④ 目的と手段 (8～12か月)

目的を達成するために行動を使うようになります。

- 布を引っ張っておもちゃを取る
- 椅子に登って物を取る

⇒これは問題解決能力の始まりです。

## ⑤ 物の機能理解 (12～18か月)

物には用途があるということがわかります。

## ⑥ 表象 (象徴機能) (18～24か月)

実物がなくても頭の中でイメージできるようになります。

⇒言葉の育ちにつながります。

# 感覚運動期のこども像

探索行動・感覚探求

ふさわしくない行動

なんでも口に入れる



# 感覚運動期に育つ力



この段階が弱いと、遊びが広がらない・模倣が少ない・言葉が伸びにくい・切り替えが難しいなどが起こります。そのため支援では**感覚遊び**・**探索遊び**・**機能遊び**・**見立て遊び**を段階的に広げます。

# 感覚運動期におすすすめな遊び

感覚遊び	布遊び・水遊び・砂遊び スライム・ボールプール・シャボン玉	感覚統合・注意・探索
因果関係を学ぶ遊び 目的と手段を育てる遊び	音の出るおもちゃ・積み木を崩す ボール転がし	因果理解・探索行動 問題解決・行動計画
物の永続性を育てる遊び	宝探し・カップ隠しゲーム	記憶 見通し
模倣を育てる遊び	手遊び・拍手・真似っこ遊び	社会性・言語
身体運動遊び	ハイハイ・トンネルくぐり トランポリン・滑り台・抱っこゆらし	前庭覚・固有覚・姿勢保持



# 前操作期

# 前操作期とは①

言葉やイメージ（象徴）を使って考え始めるものの、まだ論理的思考は未熟な段階にある、2～7歳頃の姿になります。感覚運動期で育った身体体験から言葉やイメージを使って頭の中で世界を理解し始める時期です。言葉は、気持ちを伝える・出来事を整理する・行動を調整するという、思考の道具になります。前操作期では主に次の能力が発達します。

- ① 象徴機能
- ② 言語の発達
- ③ 見立て・ごっこ遊び
- ④ 自己中心的思考
- ⑤ 直感的思考

つまりイメージで「考える力」が中心になります。

# 前操作期とは②

## ① 象徴機能（2歳頃）

実物がなくても頭の中で表せる力

## ② 言語の発達

言葉が爆発的に増える時期

⇒ 気持ちを伝える・記憶を整理するなどの土台

## ③ ごっこ遊び

見えなくても存在しているという理解が育ちます。

それにより探す、待つ、思い出すなどの力が生まれます。

⇒ 社会理解・役割理解・想像力の土台

# 前操作期とは③

## ④ 自己中心性

前操作期の特徴は「他人の視点に立つのが難しい」ことです。ピアジェの有名な実験に三山問題があります。子どもは自分の見え方と他人の見え方が違うことを理解するのが難しく、でもこれは発達の正常な特徴です。

## ⑤ 直感的思考

見た目に強く影響されます。例えば同じ量の水でも、背の高いコップと低いコップに入れると「背の高い方が多い」と答えます。これは保存概念がまだ未発達だからです。

⇒保存の概念とは、物事を論理的に捉えられるようになること

# 前操作期のこども像



順番待ちができない

貸し借りが難しい

感情調整が難しい

# 前操作期に育つ力

象徴機能

言語能力

他者との  
関係

想像力

直感的  
思考

思考・集団生活・学習の土台

言葉・イメージを使いながら考えたり経験することができ、学習の土台をつくります。ごっこ遊びなどを通して役割理解や他社理解が進み、集団生活の基盤につながります。また、言葉の発達から自己調整の土台もつくられる大事な時期です。

# 前操作期におすすすめな遊び

順番遊び	滑り台・ボール転がし・すごろく	整列・順番を待つ タイマーなどに慣れる
交代遊び	ボール投げ・太鼓遊び	役割交代 貸し借りの前段階
協力遊び	一緒に成功する遊びとして 積み木タワー・共同制作等	一緒に成功する遊び
簡単なルール遊び	だるまさんがころんだ・鬼ごっこ かくれんぼ	具体的操作期の前段階 (論理的思考)
感情理解遊び	絵本・人形遊び・ごっこ遊び	「この子はどう思っている？」

# 具体的操作期とは①

具体的なものを使って論理的に考えられるようになる時期で、7～11歳頃の段階です。前操作期はイメージや直感で行動していた子どもたちが、論理（ルール・関係）で理解できるようになっていきます。つまりルールと論理で世界を理解する時期であり、これらは学校学習の土台になり、他者と共に生きる集団生活においても欠かせない発達段階になります。

- ① 保存概念
- ② 分類
- ③ 系列化（順序）
- ④ 因果関係理解
- ⑤ 他者理解

# 具体的操作期とは②

## ① 保存概念

量は形が変わっても同じと理解できる。

⇒ 数量理解（数の理解）の土台

## ② 分類

物を仲間分けできるようになる。

⇒ 概念理解（言葉の理解・学習）の土台

## ③ 系列化（順序）

大きい順から小さい順へ、など順番に並べることができる。

⇒ 順序理解（時間理解・手順理解・数直線）の土台

# 具体的操作期とは③

## ④ 因果関係理解

出来事の原因と結果を理解できるようになります。

雨が降ると地面が濡れる。など。

## ⑤ 他者理解

自己中心性が弱まり他人の視点を理解できるようになります。

これによりルール・公平性の理解・協力する力が育ちます。

# 具体的操作期のこども像



ルールのある遊び



公平性はわかるけど負けは嫌だ

協力するけど柔軟性は弱い



# 具体的操作期に育つ力

保存

分類

系列化

因果理解

他者理解

論理的な問題解決能力の土台

「なるほど、だからこうなるのか」と理解できる時期が、具体的操作期の特徴です。「理由がわかるようになる」と、目的に応じて手段を考えることができるようになります。遊びの中で作戦を考えたり、工夫できるようになります。

# 具体的操作期におすすりめな遊び

順番遊び	鬼ごっこ・ドッジボール サッカー・かくれんぼ	ルール理解・公平性・協調
論理思考を育てる遊び	オセロ・ボードゲーム等	推論・計画・問題解決
空間認知を育てる遊び	レゴ・パズル・ブロック・工作	空間理解・計画・創造力
分類・整理遊び	絵カード分類・図鑑遊び	分類・系列化・概念理解
協力遊び	共同制作・大型制作 協力ゲーム	社会性・協力・役割理解

# 感覚運動期や 前操作期の子が 通ってきている

大人が思うより、ゆっくり育っていい



# ピアジェの発達段階で見る遊びの発達

	理解の仕方	遊びの特徴	困りごととみられること
感覚運動期	体で理解する	感覚・運動遊び 感覚探求・探索行動	なんでも口に入れる・物を投げる 高いところに登る・走り回るなど 発達として自然な行動が社会的には困りとして見ることがあります
前操作期 (2～7歳)	イメージで理解する	ごっこ遊び・見立て遊び 人形遊び・お店屋さんごっこ 等象徴遊びが中心	貸し借りが難しい・順番待ちが難しい 負けると怒る・友達トラブルなど 自己中心性の強さや感情調整の未熟さ 時間理解の弱さが関係します
具体的 操作期 (7～11歳)	具体物を使って理解する	鬼ごっこ・ドッジボール ボードゲーム等 ルールのある遊び	公平性・協調性・ルール理解が 伸びていく時期！

# 同じ「スライム」でも

## 感覚運動期



### 【感覚を味わう】

年長5歳、自閉症の男の子。ほとんど発語がなく一人遊びが中心。粘土やスライム、クリーム等の感覚遊びが大好きで感覚遊びをしている時間は着席して過ごすことができる。

## 前操作期



### 【スライムでおままごと】

小1女児。勝ち負けがつく活動等への参加渋りや失敗した時の落ち込みが強い。一人遊びか職員と1対1でのっこ遊びを好む。スライム遊びからままごとに発展した。

## 具体的操作期



### 【スライムをどこまで伸ばせる？】

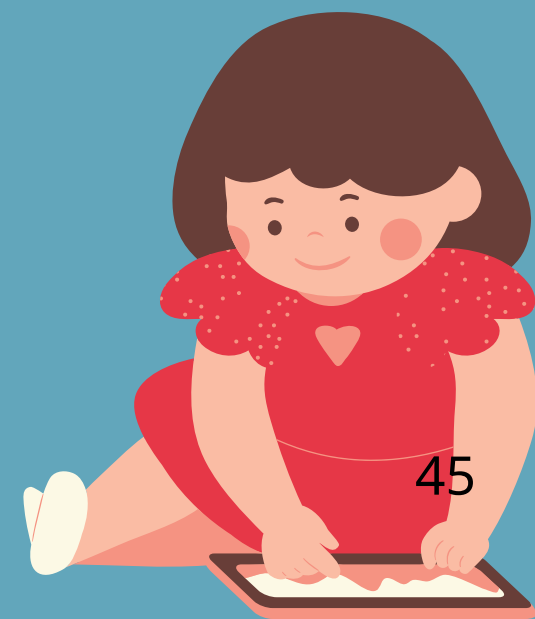
小2男児と女児、食後のゆっくりタイムにスライムを提供した所「すごく伸びるね」「どこまで伸びるかな」と話が進み机をくっつけてスライムを限界まで伸ばす遊びに没頭した。43

# 前操作期から具体的操作期



自由遊びは職員を独占して1対1のごっこ遊びが中心で、他児の介入を拒む傾向の強い小1男児。勝ち負けのつくゲームやルールのある遊び、工作等自分の苦手とする活動だと始まりの会にも参加できず走り回る、活動用品を壊す等の不適応行動が出ていた。今では勝ち負けや点数がつく活動でも積極的に参加し職員の手伝いをしたり友達の応援や得点係などもやってくれるようになった。未だに自由遊びとしては職員との1対1を好むが対等なメンバーだと大人+こども3人程度での鬼ごっこができるため、次の段階へと進みつつある。

教え込むよりも  
「自ら発見する」  
学びを大切に



# 形式的操作期とは

抽象的

仮説思考

論理的  
思考

自己理解

内省

具体物がなくとも思考できる

11～12歳頃から青年期にかけて発達する「目の前にないことも頭の中で考えられるようになる思考」のこと。もし～だったら？という仮説をもとに話したり、自分を振り返ることができるのは実は高度な発達段階なのです。

# ピアジェの発達段階と発達障害の特性

	ASD	ADHD	困りごととみられること
感覚運動期	感覚鈍麻から探求が強い 常同行動が強い	衝動的行動が強い	なんでも口に入れる・物を投げる 高いところに登る・走り回るなど 発達として自然な行動が社会的には困りとして 見えることがあります
前操作期 (2～7歳)	予測困難に対する痙攣 易怒性が強い 見通しがないと不安	多動性衝動性から 玩具の貸し借りや順番待ちの 難しさが増す	貸し借りが難しい・順番待ちが難しい 負けると怒る・友達トラブルなど 自己中心性の強さや感情調整の未熟さ 時間理解の弱さが関係します
具体的 操作期 (7～11歳)	論理で理解する（具体物を使 って）	鬼ごっこ・ドッジボール ボードゲーム等 ルールのある遊び	公平性・協調性・ルール理解が 伸びていく時期！



# 5領域との関連

# 行動の裏にあるもの

## 感情の発達・衝動性・実行機能を理解する

私たちがまず整理したいのは、「困った行動をどう止めるか」ではなく、「**なぜその行動が起きるのか**」という視点です。手が出る、泣き崩れる、切り替えられない、YouTubeをやめられない、登校前に崩れる。これらは一見ばらばらに見えますが、土台には“感情の発達段階”と“衝動性”、そして“実行機能”の成熟度が関わっています。



# 問題行動の背景

# 問題行動の3層モデル

表面

**問題行動**：叩く・壊す・高い所に登る

中間

**発達課題**：全体の発達の度合い（5領域）  
ASD・ADHD特有の行動等

基盤

**脳機能**：発達は中枢から末端へ

# 行動の裏にあるもの

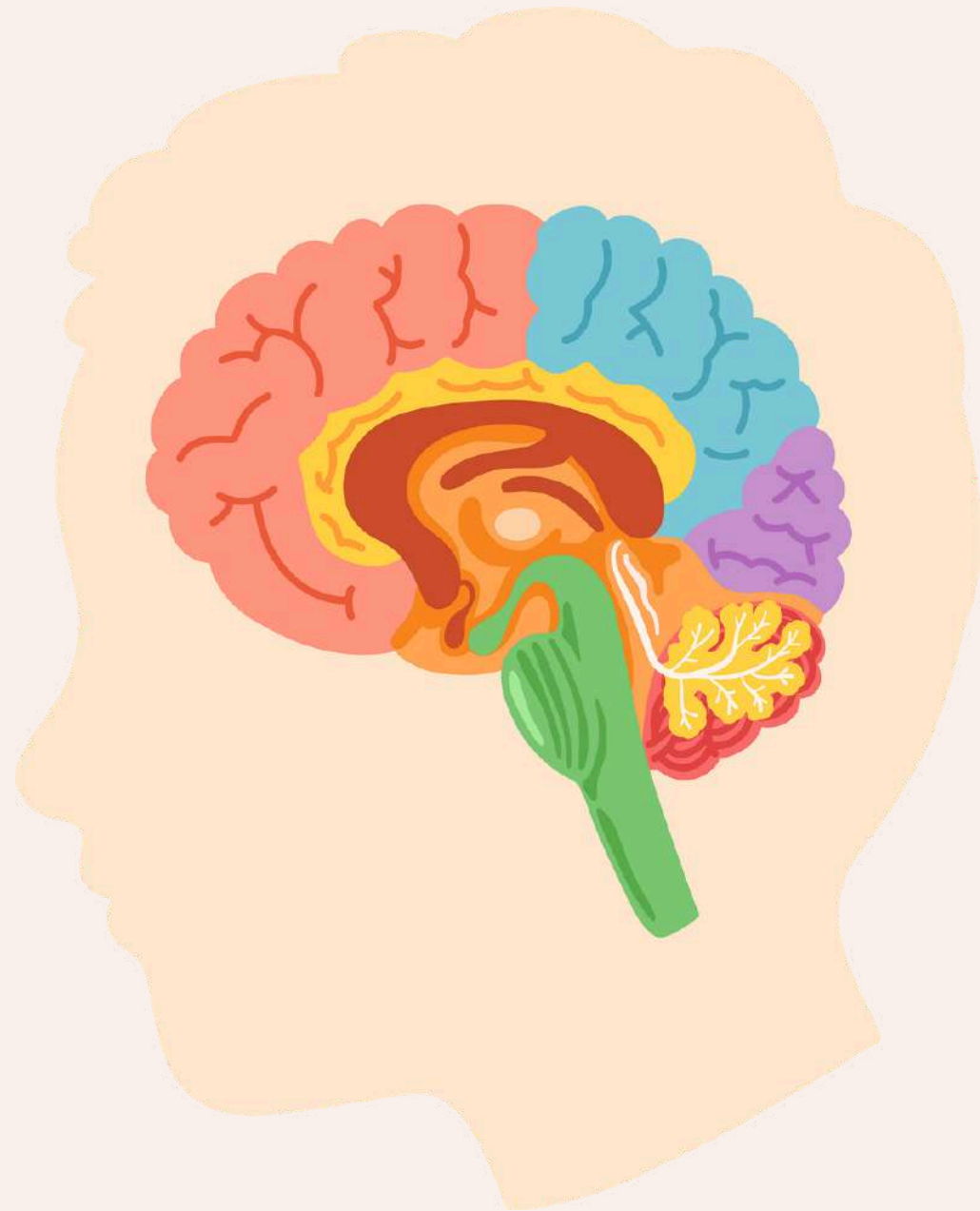
## 感情の発達・衝動性・実行機能を理解する

私たちがまず整理したいのは、「困った行動をどう止めるか」ではなく、「**なぜその行動が起きるのか**」という視点です。手が出る、泣き崩れる、切り替えられない、YouTubeをやめられない、登校前に崩れる。これらは一見ばらばらに見えますが、土台には“感情の発達段階”と“衝動性”、そして“実行機能”の成熟度が関わっています。

# 感情の発達段階

感情は生まれつき完成しているものではありません。乳幼児期は「快・不快」の二択に近く、そこから徐々に「怒り」「悲しみ」「悔しさ」「恥ずかしさ」などに分化していきます。そして最終的には、「嫌だけど我慢する」「悔しいけど次に向かう」といった“感情を調整する力”が育ちます。発達特性のある子どもは、この“感情を調整する段階”がゆっくり進む（前操作期的な思考や行動が長く残ることが多い）ことがあります。そのため、年齢相応に見えても、感情の処理年齢は実年齢より若いことがあります。これは「これから育つ領域」です。

# 脳との関係



## ③ 前頭前野（理性・実行機能）

抑制・見通し・言語化

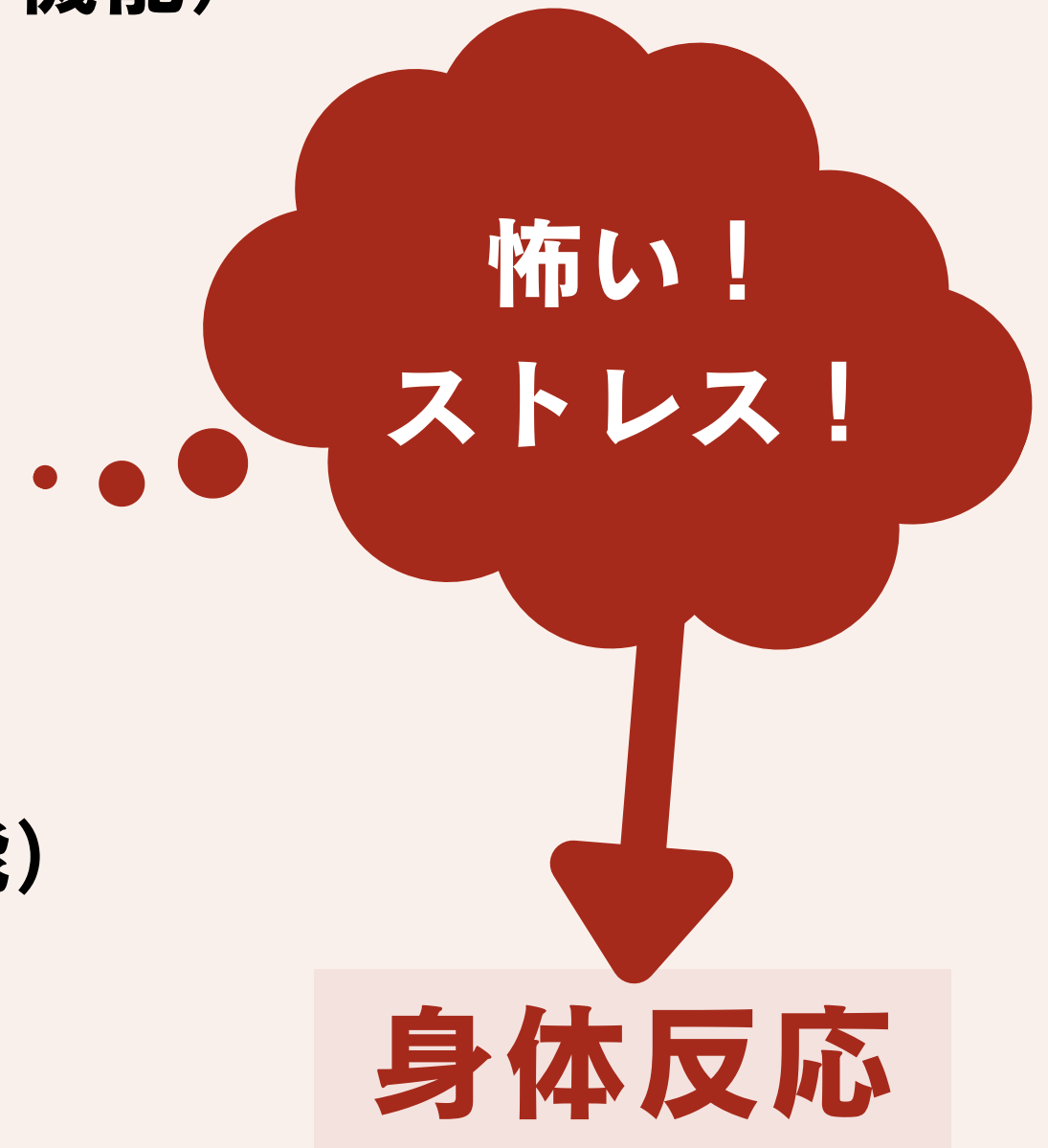
## ② 大脳辺縁系（感情）

扁桃体：怒り・不安

## ① 脳幹（生命維持・本能）

呼吸・覚醒・防御反応

生きるための基本機能



# 発達ゆっくりな子の特徴

「**我慢・切り替え・言語化**」は前頭前野（ぜんとうぜんや）が中心となって担っています。ここは、衝動を抑える、やっつけられない行動を止める、ルールを思い出すといった「抑制制御」を担います。扁桃体（感情のアクセル）が怒りや不安を出すと、前頭前野が「ちょっと待て」とブレーキをかけます。発達特性がある子は、この**ブレーキ回路が弱い・育ちがゆっくり**なことがあります。他にも、怒りや不安を言語化することや気持ちを切り替えることも関係しているため、切り替えができない、衝動的になりやすい等の困りごとに繋がります。

# 前頭前野を育てるには？

前頭前野は、生まれつきの才能よりも、経験によって回路が強化される脳部位です。これを神経可塑性といいます。

- ・ 抑制（我慢する）
- ・ ワーキングメモリ（覚えておく）
- ・ 認知の柔軟性（切り替える）

実行機能

この3つを使う経験を繰り返すことで、神経回路が強化されます。重要なのは「成功できる難易度」「本人の今の育ちからつながるもの」であること。強いストレス下では育ちません。

# 衝動性との関係

衝動性とは、「感じたことがすぐ行動に出る」状態です。怒りを感じた瞬間に手が出る、楽しいと周りが見えなくなる、勝ちたい気持ちが止まらない。これは性格の問題ではなく、ブレーキの弱さの問題です。前頭前野の発達も関係していますが、特にADHDの場合は「報酬」「やる気」「集中」に関わる神経伝達物質（ドーパミン）の問題で、働きが弱いことによって衝動性が強い行動として表れます。ASDも衝動的な面が見られますが、こだわりや予測不安、感覚過敏等が背景で扁桃体が反応し不安・警戒の表れが衝動的な行動に表れることがあります。

# 実行機能とは何か

**実行機能とは、目標に向かって自分をコントロールする力です。具体的には、始める力、やめる力、順番を考える力、見通しを持つ力、気持ちを切り替える力、これらが含まれます。**

**学校準備で一つ一つ声掛けが必要なのは、「分かっている」のではなく「自動化されていない」可能性がります。**

**YouTubeをやめられないのは、「終わらせる力」が弱い可能性がります。苦手なことから戻れないのは、「認知の柔軟性」が育ち途中かもしれません。実行機能はトレーニング可能な力です。つまり、これは“育つ領域”です。**

# 三つはつながっている

**行動は単独ではなく  
感情・衝動・実行機能が絡み合って起こる**

**感情の未熟さが衝動を強め、衝動性の高さが実行機能を乱します。例えば、怒りが爆発すると、切り替える力は働きません。不安が高まると、準備を進める力は落ちます。行動は単独ではなく、感情・衝動・実行機能が絡み合って起こります。だからこそ、感情を否定しない、衝動を罰だけで抑えない、実行機能を環境で補う支援が必要です。**

困った行動は  
「直すべき性格」  
ではなく

「育ち途中の機能」



# 誰の困りなのかを考える



本人の表出行動に  
周囲が困っている



本人が不安で  
困っている

本人にとっては安心するための手段かもしれないし、不安を伝える唯一の方法かもしれないが、周りにとっての困りの原因になることも。



# 新年度を迎える上で

# 退行現象という可能性

退行現象とは、心理学や発達心理学において用いられる用語で、**個人がストレスや心理的な負荷を感じた際に、以前の発達段階や行動パターンに戻ることをいいます。**言語や運動、日常生活、社会性などの面で、以前に習得したスキルを一時的に失ったような行動がみられ、いつもなら一人でできることも周囲に助けを求めたり、情動調整が困難な様子が現れます。この現象は通常は一時的なものですが、「赤ちゃん返り」のような状態になるため、**退行現象に対する周囲の理解と適切な対応が求められます。**

# どんなときに退行は起きやすい？

新年度に向けて気持ちを追い込まれる時期や、進級直後の時期、本人にとって心身の負荷が強い状況（行事等の前）、環境の変化、家庭内の状況の変化、きょうだいの誕生等様々ですが、特に新年度については周囲の無意識のプレッシャー等からこども自身が不安を感じ、自分を守るため、より安全で安心できる状態に戻ろうとします。「赤ちゃん返り」というと悪いイメージを持つかもしれませんが、**退行現象自体は、こどもの成長過程において自然なもの**であり、成長の一部として理解し、受け止めることが大切です。

# 但し注意が必要！誤学習

**こどもは発達の上にいる存在**です。その為、自分の身を守り、安心するための行動も、大人が思いもしない方法で表してしまうことがあります。それを一時的な退行として受け止めることは当然必要ではありますが、知的・発達に特性のあるこどもたちは、それが「社会的に見て正しい行動」、「好ましい行動」ではないとしても、“こうすればいいんだ”という体験になり、結果としてよくない行動の誤学習になってしまう可能性があります。 **こどもの気持ちを受け止めつつ、好ましい行動を教えることはセットで行う必要があります。**

# 困ったなあ、と思う行動でも

- ・子どもも、困っているサイン
- ・コミュニケーションの手段になっている
- ・子どもと環境のミスマッチによって苦しい
- ・間違えて学習している（誤学習、未学習、学習不足）
- ・子どもの行動には必ず目的がある

子どもから学ぶ  
子どもを分かるうとする

無条件の肯定的配慮



今日のこどもを  
わかるう、とは？

